

11. Hand 20 推奨グレード A

Hand 20は、日本初の患者立脚型上肢障害評価尺度であり、簡単な文章構成にイラストとフェーススケールを付加することで小児や高齢者にも理解しやすい特徴がある^{1, 2)}。Hand 20は、肘関節、前腕、手関節、手指の機能的評価項目だけでなく、外観に関する質問を加えた社会性評価項目が含まれ、全20項目であり、各項目0～10点で評価する。得点は、0～100点に換算され、3項目以上欠損項目があるものが評価不適例である¹⁻³⁾。また、短縮版のHand 10も開発されており⁴⁾、Hand 20、Hand 10ともに信頼性、妥当性、反応性も評価されている^{2,4,5)}。Hand 20は、DASHと強く関連し^{2,5)}、SF-36とは中程度の関連し、上肢機能障害評価だけでなく健康関連QOLの重要な要素を測定できることがわかっている⁵⁾。また、Hand 20は、様々な疾患に評価され反応性が評価されている。Hand 10は、高齢者においてDASH-JSSHよりも不適切例は有意に少なく、高齢者にとって有用である⁴⁾。

引用文献

1. 栗本秀. Hand 20 の信頼性および妥当性の検討. 日手外科会誌 24, 1-4, 2007.
2. Suzuki M. Development and validation of an illustrated questionnaire to evaluate disabilities of the upper limb. J Bone Joint Surg Br 92: 963-969, 2010.
3. 神谷実佳子. イラスト付き上肢障害評価票の開発. 日手外科会誌 24, 1182-1185, 2008.
4. Kurimoto S. Development and validation of a ten-item questionnaire with explanatory illustrations to assess upper extremity disorders: favorable effect of illustrations in the item reduction process. J Orthop Sci 16: 737-744, 2011.
5. Moritomo H. Reliability of the Hand20 questionnaire: comparison with the 36-Item Short-Form Health Survey. Hand Surg 19: 1-6, 2014.